

脱原発社会の実現に向けて

関西電力・高浜原発(プルサーマル発電)再稼働を糾弾する! 政府、電事連・財界の人命軽視、安全無視を許してはならない。

1月29日、関西電力高浜原発3号機が川内原発に続いて再稼働された。許されない暴挙である。未だ福島第一原発事故によって10万人を超える人々が避難生活を強いられている状況の下で、川内原発再稼働に続く暴挙である。この高浜原発はMOX燃料を使うプルサーマル発電であり、一層危険性が高い原発である。(別項の解説参照)

2011年3月、東日本大震災によって東京電力・福島第一原発が大爆発を起こし、原発の「安全神話」は木っ端微塵に打ち砕かれ、「核」エネルギーの恐怖を改めて思い知らされたのである。稼働中の原発は全て停止されてきたのである。しかし、政府は労働者市民の再稼働反対の声を黙殺して川内原発の再稼働を強行し、いま、高浜原発も動かしたのである。

政府は川内原発の再稼働にあたって、「世界で一番厳しい安全基準」と再び安全神話を吹聴して海外輸出も促進することを表明したが、九州電力は原発を稼働するやいなや、事故対策の拠点である免震棟の建設放棄を決定したのである。規制委員会による審査が如何にずさんなものであり、電力会社の利益確保のためには安全を無視し、人名を軽視する強欲さが露骨に表されてきた。高浜原発では避難計画も十分に検討されていないのである。

こうした政府、電事連を中心とする財界のやり口は決して許されてはならない。原発爆発国であり、福島第一原発を経験しながら、日本政府は今なお核エネルギーに依存しようとしているのである。原発のない社会の実現こそ、全ての労働者市民の願いであり、福島事故の教訓である。私たちは政府、電力会社によって目論まれている原発再稼働をなんとしてもストップさせる闘いに全力をあげなければならない。この3月11日は事故発生から丸5年目となるのである。3月12日(土)には福島現地・郡山市で現地集会在が開かれ、東京に向けて原発再稼働阻止！キャンペーンも取り組みと3月26日(土)には東京代々木公園で大集会在が準備されている。各職場から原発再稼働阻止に向けた闘いに参加を求めている。

※プルサーマル発電とは

使用済み核燃料から取り出したプルトニウムとウランを混合したMOX燃料を使う原子力発電。

西谷： 単純に疑問なんですけど、普通のウラン燃料棒でも非常に危ないと思うのですが、このプルトニウムを混ぜたMOXの燃料棒というのは、通常の燃料棒として大体何倍ぐらい危険性があるんでしょうか?

小出さん： 倍率で聞いて頂くのは大変難しいと思いますが、例えばそのウランが持っている放射線の毒性とプルトニウムが持っている放射線の毒性を比べれば、約20万倍危険。(中略)

西谷： かなり高浜って危ないですよね?したら。

小出さん： はい。もともと普通のウランを燃やす原子力発電所でも危ないと思いますし、それにプルトニウムを混ぜるといふようなことをすれば、より危険が増えてしまう。そのことはもう争う余地がなく当たり前のことです。<小出裕章氏対談(ラジオフオーラム)> より

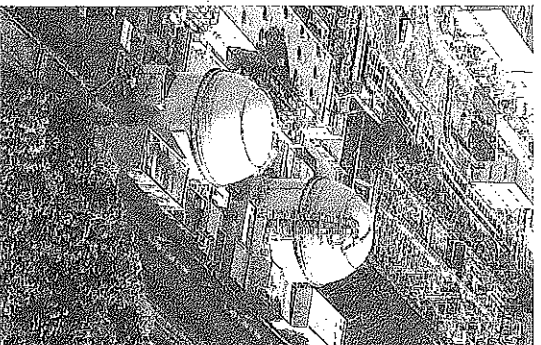
<http://www.raffj.org/koidojournal/no116/>

高浜原発、老朽な再稼働 3号機新基準で3基目



関西電力は28日、高浜原発3号機(福井県)を29日

夕に再稼働すると発表し、午後5時ごろに再稼働させる予定で、30日前6時前後には原子炉内で核分裂反応が続く「臨界」の状態になる見通しだ。2月1日に試験運転に入り、2月下旬の営業運転をめざす。30km圏内には約18万人が暮らすなど都市部に近い。核燃料から取り出したプルトニウムとウランの混合酸化物(MOX)燃料を一部使用プルサーマル発電で、新規制基準下では初めて。再稼働の最終的な手続きが進む四国電力伊方原発3号機(愛媛県)も、MOX燃料を使う予定だ。(伊藤弘毅)



関西電力高浜原発の3号機(奥)と4号機(福井県高浜町、本社)

ラジオ版に動画

朝日新聞1026年1月29日